

平成18年度 教師海外研修（派遣国：サモア独立国）実践報告書

1. タイトル サモアと日本の伝統生活に学ぶ資源循環型社会のあり方
 2. 氏名 佐藤 友紀 学校名 大阪府立四條畷高等学校 担当教科 家庭科

3. 実践教科と時間数 4. 対象生徒・学年と対象人数

家庭科(家庭基礎) 7時間×3クラス 2年生文型選択生徒 (計123名)

総合学習 3時間×1クラス 3年生「世界のくらしと私たちのつながり」選択生徒(計20名)

5. カリキュラム案

(1) 実践の目的

開発途上国と聞くと物質的にも工業技術的にも満たされていない国、というステレオタイプの想像がはたらく。しかし、強いコミュニティの結びつきを持ち、分かち合いの精神を重んじながら自然と共存してきたサモアでは、そもそも豊かさや価値観のものさしが我々とは違うように思える。しかし一方で、海外への出稼ぎや移民親族からの仕送りは車や電化製品などの大型消費財への欲求を高め、スーパーマーケットには輸入加工食品があふれており、その影響は、ゴミ処理問題や肥満を初めとする生活習慣病の増加などの社会問題となっている。実はこれらは日本に住む我々と共通する課題であるということに気づき、ともに地球に暮らす仲間として持続可能なくらしを築くためにできることを考えたい。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1・2限目 テーマ:サモアを知る ねらい:サモアのくらしや、現在の課題を知り、自分たちのくらしについても再考する	(1) サモアについてイメージを書き出す。 (2) カードアクティビティ「日本のこと?サモアのこと?」を行い、サモアのくらしを想像しつつ自分たちのくらしを再考する。 (3) 解説しながらサモアの課題を整理する。	(1) 世界地図、自作パワーポイント資料 (2) カード教材「日本のこと?サモアのこと?」 (3) パワーポイント資料
3限目 テーマ:大切なものはなに? ねらい:サモアと日本の高校生の願いや価値観を知る	(1) ワークシートアクティビティ“What do you consider important in your life?”を行う。 (2) 両国の高校生の結果を比較し、大切なもの、豊かさなどについて考察する。	(1) ワークシート“What do you consider important in your life?” (2) ワークシート集計結果
4・5限目 テーマ:サモアと日本の課題 ねらい:サモアを通して日本にも共通する今日的課題を知り、植物資源を使う資源循環型社会について考える	(1) カルチャーボックス「テーマ探し」を行う。 (2) 各グループのテーマを考える中でサモアと日本の社会にある課題を見つける。 (3) サモアと日本の植物資源を使い尽くす知恵を学び、課題を整理する。	(1) サモアで収集した生活用品、写真、教科書、日本の民具、分解性の新素材など (2) パワーポイント資料 (3) 教材プリント
6限目 テーマ:ツイアビのメッセージ ねらい:ツイアビのことばを現代に照らして考える	(1) サモアの酋長ツイアビのことばをまとめた『パパラギ』のメッセージを受け止める。 (2) 未来に続く持続可能なくらしにとって普遍的に必要なことは何か。	(1) 『絵本パパラギ』(和田誠・学習研究社)より抜粋資料
7限目 テーマ:サモアの友へ ねらい:自分たちの学びをサモアに伝える	(1) 今までの学びを整理し、サモアの高校生たちへのメッセージを作成する。	(1) 辞書、パソコン

(3) 授業実践の詳細

1・2限目「サモアを知る」

1. 位置、人口、面積等かんたんな説明だけの段階で、サモアについてのイメージを書く。
2. 18枚の「日本のこと？サモアのこと？」カード（資料①）を使い、サモアの暮らしを想像しながら同時に自分たちの暮らしについても再考するアクティビティを行う。
3. パワーポイント（資料②）を使ってサモアの文化や習慣、自然や家畜の命に生かされることを実感できる暮らしなどを解説しながら、海外移民を希望する人が多いこと、サモア語と並び公用語である英語での学校教育のようすなどを伝えた。
4. 最初に書いたサモアのイメージと比べながらふりかえる。

* 授業の様子

1. で生徒が書いたサモアのイメージは「真っ黒な肌、自給自足、質素な食物、暑い、ヤシの木、自然が豊か、海がきれい、農業か漁業、歌が好き、先進国への憧れ」など、だれもがのんびりした南の島に描くイメージであった。カードアクティビティ「日本のこと？サモアのこと？」では、サモアという国の伝統、暮らし、家族のあり方を伝えるとともに、日本とは違った価値観の中でのサモアの豊かさに気づき、一方でその裏にあるグローバリゼーションや消費社会の影響を考えることをねらいとしていた。また、それをきっかけにして日本や自分自身の価値観を考えるきっかけにしたいと考えた。

* 生徒の感想から

- ・ サモアのイメージと実際は、本当に違うことだらけでびっくりした。もっと原始的な生活なのかと思っていたけど、電気製品もちゃんとあった。もっと野菜とか畑で作るような食べ物が多いと思っていた。
- ・ 小学生や中学生も伝統ダンスを踊っていてすごいなあと思った。日本人の私は何か伝統の踊りを踊れと言われても、かろうじて盆踊りぐらいかなあ？なんとなく人々の雰囲気は沖縄に似ているなあと思った。
- ・ 英語で全ての授業とは大変そうですが英語力はつきそうです。私は嫌ですが。サモアでは満天の星空が当たり前なら、サモアの人が空よりも地上の方が明るい日本の夜を見たらどう思うでしょうか。
- ・ 開発途上国ということばかりから貧富の格差だとかずさんであることをイメージしていたが、サモアの現状から受けた印象は明るいものだった。金銭的に裕福というわけではなくて、彼らは自分たちの生活に誇りをもっているというか、本当に広い視野で物事をみてるなあと思った。今の私たちははたして自分達の生活に誇りをもてるのかなあってすごく考えさせられた。
- ・ サモアの人々は開放的でより本来の人間に近いのではないかと思った。
- ・ やはり日本とは感覚が違う。子どもでも、目の前で豚が殺されるのを見て「やったーゴハンだー」（想像）と喜んでいる日本ではまずありえないだろう。

3限目「大切なものはなに？」

- (1) ワークシートアクティビティ“What do you consider important in your life?”（資料③）を行う。
- (2) 自分の結果と、サモアと日本の高校生の結果を集計したもの（資料④）を比べて、大切にしたいこと、豊かなくらしに望むことの共通点と相違点から考察する。

* 授業の様子

大切にしているもの、欲しているものの違いから社会のあり方の違いを感じるとともに、自分とは違う文化・社会に暮らす同世代の若者たちと同じ願いを読み取り、普遍的な価値を共有している喜びを感じてくれたようだ。一方で、動物がペットではなく家畜として身近にいる暮らしについては想像しにくかったようだ。食育の重要性が言われているが、やはり体験的に学ぶ必要があるように思った。

* 生徒の感想から

- ・ サモアの学生は”勉強したい”という気持ちや、”知りたい”という好奇心が強いように思います。日本の学生はどちらかというと”ゆっくり暮らしたい”という印象を受けました。日本人は精神的に忙しいのでしょうか。
- ・ サモアには自然がいっぱいあるから気にとめないのと同じように、日本にはパソコンや本、教科書がありふれているので選択肢から消えていくんじゃないかなと思った。よく考えればどちらも大切であって、なくてはならないものだと思う。こうして比較してみると、見えていなかったものが見えてくるような気がした。
- ・ 先進国と発展途上国の違いを大きく感じたのは”国の経済的発展”で、日本人は最後まで残した人は0でサモアはほとんどの人だったのでこれが世界の現実なんだと思った。でも友人と家族と健康は万国共通なんだと思った。ちょっとうれしい。
- ・ 今、私達は日本という恵まれた国に住んでいて、ケータイや、車、電化製品のような便利な物を当たり前のように持っています。もちろん、国自体も発展しているし、平和だし、今現在のこの状況をもう一度考え直すと、とっても無理があると思った。私達は今を当たり前のように生活しすぎていると思う。
- ・ サモアの子が、平和を一番に持ってこなかったのはどうしてだろう。今が平和だと感じているのだろうか(3番目にあるけど)。法律やルール、のんびり暮らすことがまったく挙げられていないのはやっぱり星空と同じように、あたりまえにあると、感じているからなのかな、と思った。
- ・ サモアと日本の考えに似ているところがあるのがうれしい。でもサモアの(your extra idea に出てきた)大事なものに家畜が多い！どんだけ食うこと考えてんですか！？

4・5限目「サモアと日本の課題、資源循環型社会とは」

- (1) カルチャーボックス「テーマ探し」生徒を8つのグループに分け、各班に4～5個ずつの写真やモノを渡す。それぞれのモノは何か想像し、共通するテーマを考える。(資料⑤)
- (2) 各グループのテーマやモノについて説明し、全体のテーマとしてサモアと日本が共通して抱える食生活の変化と健康の問題や、ゴミ問題などの環境問題についてなどの課題を整理する。
- (3) 伝統的な循環型社会の中ではヤシ、バナナ(サモア)や竹、ワラ(日本)などの植物資源を使い尽くす知恵があることを学び、今後目指すべき方向性を考える。

* 授業の様子

各グループに配ったモノの共通性を見つけ出し、グループごとのテーマを考えさせた。教師が設定した隠しテーマは「サモアの伝統的な食文化」「輸入食品と生活習慣病」「生分解性の新素材」「ゴミ問題」「ヤシからできるもの」「ワラからできるもの」などである。ただし、1つずつ“迷子”のモノを紛れ込ませたのである、という設定だったので、推理ゲーム的な要素が加わって楽しんで考えていたようだ。一連のサモアの授業の中で行ったので、ワラや竹などをテーマとして配られたグループは「サモアのモノとは言っていないよ」という教師の解説に「しまった、やられた！」と苦笑していた。その後、今日の授業テーマとして考えたいことはサモアと日本がそれぞれに抱える現代社会の課題であること、その解決の糸口が伝統的な循環型社会の知恵から学ぶことであると説明した。そうした角度で見ると、技術を駆使して開発された新素材やバイオエネルギーは、昔やっていたことを別の方法で実現しつつあるものである、と

気づかされる。日本の江戸時代が高度な循環型社会であり、その知恵が高度経済成長以前まではうまく活かされていたことを知ることは、生徒にとっては伝統を新たな視点で見直すきっかけとなった。

* 生徒の感想から

- ・ サモアも日本の江戸時代も自然をうまく利用していたんだなと思った。自然を大切にする精神を世界の先進工業諸国が理解しなければ何も変わらないことを知った。「物」を使い切ることで、「物」のありがたみを再確認する機会があったらいいなと思う。
- ・ それぞれの共通点を見つけるのは大変だった。言われると”なるほど”と思うのも多くあった。循環する素材(これからサモアで)と循環される素材(日本で昔から使われた)に興味をもった。もっとそういう物について知りたいと思った。サモアの人々はモノを大事にする。無駄だと思ふものは生産しない。その精神が私たちにはない…というか欠けている気がした。
- ・ サモアの自然に優しい生活がすごくいいと思ったけど、マクドナルドとか色々と西洋のものが入ってきていてそのうち廃棄物を出す国になってしまう日が来るのかなあと思うと嫌だった。でもそういうながらも自分の今の生活を捨てたくないと思う自分がわがままでイヤ。勉強をすると複雑な気持ちになります。
- ・ 日本にもサモアにもそれぞれ誇るべき文化があるのならば、もう少しそれを尊重するのもいいかもしれない。自国の文化を知らない者に、他国の文化などわからないだろう。
- ・ サモアの人々の暮らしのように、全てのものがうまくまわっていて、循環型社会が成り立っていた時代が日本にもあったということを知りました。江戸時代のように太陽エネルギーでまわる暮らしに戻ることはできないと思うけど、それに近づけるように努力することは大切だと思います。発展途上国と先進国がお互いに協力して環境を改善していくべきだと思います。きっと太陽エネルギーでまわる暮らしができれば生き生きとした生活が送れるような気がします。
- ・ 捨てたものが害になるだけの今の生活が、いかにもったいないか、と痛切に思う。しかし、循環型社会と便利で豊かな生活というのは、なかなか同時にできるものではない気がする。いかに使ったものを、捨てて無駄にせず、再利用、再生利用できるかが、大きな課題だろう。せっかく発達してきた現代の科学技術を、地球環境を保護するために是非とも活用してほしい。
- ・ 私は各グループを見て、今の私達は必死に昔のシステムを取り戻そうとしていると感じました。昔のくらしは今と違って太陽や水といった自然エネルギーを使って生活していたんだなと思いました。もちろん今の私達の生活は昔よりずっと物が増えているから、昔とまったく同じとはいえないけれど、それでも昔の生活に学ぶことは、たくさんあると思う。

6限目「ツイアビからのメッセージ」

- (1) 1915年頃にヨーロッパを旅したサモアの酋長ツイアビが語ったことば(『パパラギ』)を抜粋して構成したプリントを読み、彼のメッセージが現代のサモアの人々を含めた私たちに思い出させてくれることを受け止める。
- (2) 現在の世界にある格差を埋め、未来に続く持続可能な暮らしを築くために、普遍的に必要なことは何か考える。

* 授業の様子

『パパラギ』からの抜粋を読み、感想を書いた。最初に実施したクラスでは、ツイアビのことばが率直であるだけにストレートで痛烈な批判として受け止めた生徒も多く、反発を覚えた、気分を害したという生徒も少なくなかった。「文明人批判としてだけ読むのではなく、人間の根本的な心のありを示唆している。例えば今日本で問題になっているいじめがなぜ起こるのか、考えるきっかけになるのではないか？ツイアビのことばは今のサモア人にとっても耳の痛い話のはずだ」と問いかけると少し客観的な視点をもって捉えることができたようだ。また、ツイアビの生きた時代は90年も前のことなので、今のサモアの暮らしがどう変わったのか、変っていないのかを感じてほしくて、1997年より4年間、サモアで暮らしたエッセイスト鳩山幹雄氏の一家のエピソードから、主に子どもたちの暮らしを併せて紹介した。

* 生徒の感想から

- ・ 最初に書いた「サモアのイメージ」で、私が書いたコトは先進国の方が良い暮らしをしていることが前提にあって、自分勝手なことを書いてしまったような気がする。すごく反省させられた…。
- ・ パパラギの話では「たくさん物を作ったので、自分が神様になったと思い込んでしまったのだ。」という一文が印象的でした。自然と人間の関係、人間と人間の関係はますます深刻な問題になっています。でもこれではダメだとパパラギも気づき最近では色々な改善策、活動を始めているのも事実です。
- ・ 人間って発達とか探求心とかがないと生きていけないから、この発達した科学があるからこそ今できることを探して、ツイアビも認めるパパラギの世界を作りたい。今の日本人ならこのツイアビの言葉をしっかり受けとめて自分を振り返ることができるだろうと思うけど、逆に今のサモア人はこの言葉を聞いてくれないと思う。もしそうだとしたらツイアビはどう思うだろう。
- ・ ”こわした物を自分の力で生き返らせようとしている”という言葉は、今になってもあてはまる、胸に痛い言葉だと思います。必死になってリサイクル等の運動を進めている”パパラギ”の私達を酋長のツイアビさんがもし見ることができたなら、今さらと笑われるんでしょうか。それとも何も変わっていないと言うのでしょうか。
- ・ 便利なことが私たちには、常識であるけれど、便利すぎるということは、自分たちをもっと忙しくさせ、機械的なことしかできなくさせていってるのかもしれない。文を読んで、批判的だからイライラしたけど、反対の立場なら、「それほどの便利は必要じゃない」と思うかもしれない。いろいろな面から見直すことは大切だと思う。考え方やとらえ方はいろいろだから、批判的に書くのはよくないと思ったけど、考え方や、とらえ方がいろいろだからこそ、そういうのも有りですね。
- ・ サモアが物質的に豊かになっていくのは悪い事だとは思わない。でも物質的に豊かになっていくことで、今の私達みたいになにかを失ってしまいそう。例えば分かち合うことやったり平等の精神やったり…。そんな当たり前のことが今、私達はできないから。日本が抱えてしまっている「心」の問題も同じこと。物質的に豊かになって、人が考えることをしなくなって今起きている問題。一人一人が心に「ゆとり」を持たなければならない。でも私たちが今言う「ゆとり」というのははたして簡単にもてるのかなあ…。うーん…考えるべきことがいっぱい。

7限目「サモアの友へ」

- (1) 今までの学びを整理し、サモアの高校生たちへのメッセージを作成する。

* 授業の様子

たくさんの気づきと学びをくれたサモアのイツ・アサウ・カレッジの未知の友人にメッセージを書こう、と提案した。ただし、12月はサモアの学年末にあたり、これから長い夏休みに入ることと、郵便事情もよくないので、もし何らかの返事があるとしても春以降になる。現在の高校2年生のクラスでは紹介することはできない。サモアンペースでのんびり待つしてみるのも悪くない、と考えてくれると嬉しい。

- * サモアの友人に向けて、生徒のメッセージから(英文と日本語訳の両方を作成、日本語のみ抜粋)
 - ・ こんにちは。サモアの授業を通して、サモアとそして自分の国の両方のよいところ、そして悪いところがわかりました。サモアの時間の流れ方や過ごし方はうらやましいものがありました。これから先、サモアについて学んだことを少しでも取り入れられたらと思います。みなさんも、日本を知っていくことで、日本はもちろん自分の国もよいところを知っていくことができればと思います。
 - ・ Talofa. 私は、サモアの文化を知って、日本の文化とぜんぜん違うから、ただ感嘆するばかりだった。(チップスになった)プランテンとかパンの実は食べたけど、他のも食べてみたい。特にココナッツ系は現地で食べるとまた一味違うと思うから食べてみたい。ファイヤーダンスとかめっちゃすごいと思った。一回サモアに行って生で見たい。サモアのおおらかなところはすごくいいと思った。
 - ・ 僕はあなた達が毎日するように、ラグビーをしています。ラグビーにおいては、サモアは日本より強いんですね。どうしてそんなに強いんですか？サモアにはそのスポーツしかないからですか？僕にはわかりません。日本の人口の方がはるかにサモアより多いのに…。それでもサモアは強い。僕は不思議で仕方がないです。いつの日かサモアがオールブラックスに勝る日を願っています。

(4) 授業後所感と今後の課題

授業を計画するにあたっては、南太平洋の小さな島国サモアについての異文化理解を超えて、どこまで深くサモアに照らして自分たちの暮らしを考えることができるか、その切り口を探すのに悩んだ。「豊かさとは何か」というテーマは基本に据えたが、物質的飽和状態にある我々がサモアの時間の流れをうらやましがらただけでは現実を見ることにはならないし、共に学びあう関係を何とか模索したかった。

ちょうど地球温暖化とゴミ問題を軸にした環境教育の授業を10時間終了した後であったことから、江戸時代に持続可能な社会システムの知恵を学ぼう、という石川英輔氏の著作にヒントを得て、変りつつあるサモアの様子から学びたいと考えた。サモアではヤシを余すところなく衣食住にわたる生活のすべてに使い、最後は自然に返す生活が生き続けている反面、増え続けるプラスチックゴミ、粗大ゴミの処理が課題となっている。今年から、スーパーで渡されるビニール袋は生分解性のものしか輸入できなくなった。さて、サモアはこれからどうなるのか。そして、日本は・・・？

閉じた小さなガラス容器に入れられた水草と小魚とバクテリアの関係(マイクロコスモス)のようにシンプルには目に見えてこないけれど、地球上に共に生きる私たちもそれぞれの場でバランスを考えて生きていかななくてはいけない。今、世界ではサトウキビやトウモロコシからバイオディーゼルの生産する技術の進歩がめざましい。いずれは、サモアの暮らしに密着したココヤシをエネルギーを採るために量産しよう、ということになるかもしれない。植物はたしかに循環する資源ではあるけれど、あらゆる可能性も含めて、南の国々の持続可能性を犠牲にするものであってはならない。今回、サモア研修の機会をいただいて作成した教材は、新たな技術の行方を見つめることも含め、循環型社会を考える実践としてさらに進化させていきたいと思う。

(5) 参考文献・参考資料

PLANTS IN SAMOAN CULTURE the ethnobotany of Samoa, W. Arthur Whistler, Ph. D. , Published by Isle Botanic, 2000

『絵本 パパパラギ はじめて文明を見た南の島の酋長ツイアビが話したこと』和田誠(構成・絵)/学習研究社

『パパパラギ』エーリッヒ・ショイルマン(編集)・岡崎照男(原訳)/立風書房

『「最後の楽園」サモアで暮らす』鳩山幹雄/風媒社

『大江戸えねるぎー事情』『大江戸リサイクル事情』『大江戸テクノロジー事情』石川英輔/講談社

参考 HP 『Talofa lava from SAMOA !』 (<http://gogo.chips.jp/top.htm>)

開発教育教材『レスカの学び—自分の中の異文化に会う』土橋泰子(制作)

(6) 資料 (使用教材と授業風景抜粋)

資料①カードアクティビティ「日本のこと? サモアのこと?」

進め方

- ・ 下記のカードを切り離して混ぜておき、グループで話し合いながらサモア、日本の2組に分ける。
- ・ 裏には日本とサモアの写真を印刷してパズルのように答えあわせができるようにしてある。

<サモアの高校生編>

はやく大人になりたいな	私は、混んだバスに乗っても必ず座ります	英語をしっかりと勉強して将来は海外で働きたいです
先生や目上の人を尊敬する気持ちが大切です	うちには窓がありません	クラスは習熟度によって分かれています
ご飯は好きなものからたくさん食べたいです	クリスマスは1年で1番大切な行事です	講堂に座ってみんなで歌をうたいます

<日本の高校生編>

あんまり大人にないたくないな	混んだバスではお年寄りに席を譲って立ちます	将来は安定した職業について生活したいです
家族とは友達みたいに仲良しです	星空を見るのが好きです	クラスは進路希望別に分かれています
ご飯はあまり食べ過ぎないようにしています	休みの日は友達と買い物に行きます	あぐらをかいて座ると怒られることがあります

資料②サモア紹介映像(左上から時計回りに 自然、すまい、命をいただく、移民局、学校、習慣)



